

講座名	曜・時間	1 学 期	2 学 期	3 学 期	講 師
手あみもの (定員20名)	(月) 午前 10:00 ～ 12:00	◎1枚ごとに製図及び割り出しを指導。修了までには一人で製図ができます。 ○棒針編みの基本技法を学ぶ ○かんたんベスト ○ブリーズベスト	○ブリューゲルチュニック ○レース模様のカーディ ○かぎ針編みの小物	○ラグラン袖プルオーバー ○流行あみものなど	岡村 啓子
英会話(初級) (定員30名)	(月) 午後 1:30 ～ 3:30	◎中1～高1程度の内容 特に、中学校で学習する文法や会話表現をしっかりと学ぶ。 ○リスニング、リーディング、音読を通して様々な英語を浴びる。 ○4～5月は、英語を思い出すようにあいさつ、数字などの基礎を重視する。 ○海外旅行で使用する基本的な表現を身につける。 ○週末の出来事などについて話せるようにする。			向山 智子
水墨画 (定員20名)	(月) 午後 1:30 ～ 3:30	◎水墨画の歴史背景、水墨画の用具用材 ○三墨法の調墨から四君子(蘭・竹・菊・梅)等花鳥画の線描き、面描きの基本画法	◎水墨風景画を描く。 樹葉法、山石法、雲煙法等の画法を基本に、水の表現(滝・溪流・湖沼・霧・雪)、水墨画で大切な余白の表現の基本画法	◎作品を完成させる。 色紙、掛軸等の基本画法も含め作品を仕上げる。 ◎各学期を通じて作品の画評会を行い鑑賞の知識を高める。	宮澤 祐司
書道 (定員20名)	(火) 午前 10:00 ～ 12:00	◎漢字の学習 ・基本技法 ・楷書を習う ・行書を習う ・隷書を習う ◎調和体の学習 ・基本学習 ・身近な言葉を書く ◎かなの学習 ・いろは単体を習う ・変体がなを習う	◎漢字の学習 ・草書を習う ・古典を学ぶ ・楷書、行書、草書 ◎調和体の学習 ・詩、歌、文章を書く ◎かなの学習 ・古筆を学ぶ ・俳句を書く ・和歌を書く	◎作品の制作 ・漢字、調和体、かなとともに作品に仕上げる	新井 清玉
実用英会話 (定員20名)	(火) 午後 1:30 ～ 3:30	◎絵カード、会話カード等を使って基本的な英語の表現力をつける(中2～高1程度の内容) ◎日常生活などについてできるだけ英語で話してみる	◎絵カードを見て、英文を作ったり、クラスメートに質問したりしてみる ◎新聞やTVのニュース、身の回りのできごと等について話してみる	◎更に会話力をつける ◎フリートーキング	近藤 秀子
絵手紙 (定員20名)	(火) 午後 1:30 ～ 3:30	◎形式にとらわれず、楽しく絵と言葉で想いを伝える絵手紙を描く。 ◎顔彩、水彩絵の具、色鉛筆、パステル、墨など、自分の好きな用具で自由に絵を描く。 ◎毛筆、筆ペン、割りばし、ボールペンなどで、絵手紙の文字の書き方を工夫する。 ◎四季の草花、野菜や果物などを描き、季節便りの絵手紙をつくる。 ◎型押し並べなどの造形遊びを通して、楽しく暑中見舞いや年賀状をつくる。 ◎写真に撮った身近な風景・草花・家族の顔・動物ペットなどを色紙に大きく描く。 ◎互いの作品の鑑賞し合い、表現の仕方や工夫の良さを学び合う。			小池 一秀
水彩画 (定員20名)	(木) 午後 1:30 ～ 3:30	◎水彩画の基本的な心構えについて ◎水彩画の特徴を知り有効的な表現を高める ◎いろいろな用紙の特徴を知り、その特徴を活かした表現を心がける ◎用具、材料などを自分が使いやすいようするなど工夫してみよう ◎デッサン力を高め表現や感動を豊かにしてみよう ◎線や面を意識して内容表現をより独創的なものにしよう ◎色を高め、混色・滲み・暈しなど技法を身につけ、より向上に努めよう ◎静物画・風景画・人物画・構想表現等を通して、ものをみる力や表現する力を養い感動を高めよう ◎構図・配色・透明感・遠近感・質感等の表現が高めるようにする ◎様々な表現をして水彩画の楽しさを知り、さらに自分しか出来ない個性豊かな表現をしてみよう ◎自然の美しさに感動し写生などの活動に幅を広めて楽しさを倍加できるように努めよう ◎作品研究や批評会を通して自己の表現の幅を広め資質の向上に努める ◎公民館の行事に参加し作品展示を通じて地域社会と交流し、また市内のギャラリーで展示し鑑賞者の意見に留意し向上に努めよう ◎いろいろな展覧会を鑑賞し、または出品して資質の向上に努める			飯島 文隆
楽しむ 「かな書道」 (定員20名)	(金) 午前 10:00 ～ 12:00	◎紙入生については個別にお悩みを、具体的に指導し、来月の不安心して、ご参加ください。 「書」を生活の中で楽しむために まず、かな書道の基礎を学びます。 (太筆、細筆を使用) ◎かなの基本線 ◎ひらがなの単体 ◎変体がな ◎連綿 (2～5文字くらいのもの) ◎俳句を細筆で書く	◎和歌の行書き ◎手紙(年賀状を中心に) ◎散らし書き ◎太筆での作品制作	◎和歌や俳句を短冊や半懐紙に書く ◎作品に仕上げる ◎「書」を生活の中で楽しむ	日詰 静琴